

水道情報活用システム導入支援事業（門真市環境水道部）

- 令和6年度より、水道標準プラットフォームによる施設台帳システム及び運転監視システムを導入する。
- 当該事業を通じて、システム間でのデータ連携を行うことにより、施設の稼働状況や点検状況などのデータの利活用を図る。

事業概要

- ・ 事業期間：令和6年度～令和9年度
- ・ 実施個所：門真市
- ・ 事業概要：①水道標準プラットフォームの導入
②施設台帳システム及び監視制御システムの連携を図る。

導入により目指す業務効率化

- ・ 現在は監視制御システムをオンプレミスで導入し、施設台帳システムはExcelベースでの運用としていることから、システム運用において非効率な時間やコストが発生している。



- ・ 水道情報活用システムを導入し、異なるシステム間でのデータ連携を可能とすることで、業務時間の削減及びコストの削減を実現する

before

非効率な運用によるコストの増加

非効率な運用による業務時間の増加

水道標準プラットフォームによるシステム間連携

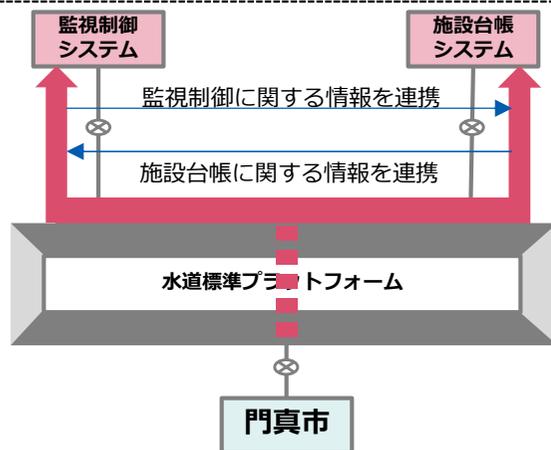
after

システム連携による削減効果

効率化による業務時間短縮

具体的な連携の内容

- ・ 監視制御システムにおける施設の稼働情報、施設台帳システムにおける施設の点検、修繕等の情報を連携する。
- ・ 水道情報活用システムでの導入を行うことにより、異なるベンダー間のシステムであっても連携が図れる形とする。



データの利活用・付加効果

現状 本市の監視制御システムは、専用回線により中央監視室と各施設を接続し、サーバーについてはオンプレミスで運用している。

また、設備台帳については、Excelベースで運用していることから、各システム間での互換性がなく、非効率な運用となっている。

データの利活用 水道標準プラットフォーム上で監視制御システムと施設台帳システムが連携された場合、配水量、施設の稼働状況等の運転と点検状況や故障履歴のデータが一元管理が可能となり、データ利活用により、更新計画、維持管理計画の策定が可能となる。

付加効果

- ・ 個別管理されていたデータを一元管理することにより、作業効率の向上が期待できる。
- ・ クラウドサーバーへのデータ保管により、バックアップ体制の強化が図れる。
- ・ 一元化されたデータを共有することにより、ベテラン職員からの業務の引継ぎや別システムとの連携を行う際、業務の効率化が期待できる。

問合せ先

門真市環境水道部工務課
TEL:06-6903-2124 / Email: sui03@city.kadoma.osaka.jp